

大項目	G 基盤の充実			中項目	1人材の確保と育成					
小項目	(1)人材の確保			事業名	産業教育の実施					
連携施策	大項目	F	中項目	2	小項目	(1)	事業	①	細事業	①
細事業名	<b>①産業教育の充実事業</b>									
事業主体	市(産業振興課)、佐倉商工会議所									
現状と課題 (従来の取組)	<p>若者の就業率低下の一因として、若年層の職業意識が希薄であることが指摘されており、学生時代からその自主性や創造性を引き出すとともに、地域や産業への関心を深めるための教育環境を整備することが必要です。</p> <p>現在市内中学校では全11校においてキャリア教育(職場体験学習等)が行われていますが、学校での教育においては、時間的・制度的制約が大きいことから、現在以上にメニューを追加・充実させるのは難しい状況です。</p>									
事業の概要	<p>高校生版「チャレンジショップ事業」(F-2-(1)参照)の実施 市内高校に通学する高校生のグループが、長期休暇期間中、商品販売の企画・仕入れ、ショップのレイアウト・運営、収支決算等、ショップのオープンから決算まで自分たちで取り組むことにより仕事の魅力や困難さを体験し、職業への意識や、市内商工業への関心を高めます。</p> <p>【支援内容】</p> <p>(1)1グループにつき数万円の助成金を支給(店舗製作費、包装資材費等)</p> <p>(2)店舗の運営に関する地元事業者によるアドバイス(佐倉商工会議所と連携)</p> <p>(3)チャレンジショップ開催に関する広報</p> <p>小中学生用の産業啓発資料作成 小中学生を対象とした市内産業に関する資料を作成・配布し、子どもたちの職業観形成、及び地域産業に対する知識向上の一助とします。</p>									

指標	現状値(21年度)	目標値(27年度までに)
高校卒業後、市内に就職する高校生の数	-	増加させる。
指標については、各事業の実施段階で、関係団体との協議を経て、より具体的なものを設定します。		

年度	H23	H24	H25	H26	H27
事業実施予定	総合計画が決定された後、確定します。				

【第4次佐倉市総合計画における位置づけ】

施策No.	施策の方向
第4章	「明日へつながるまちづくり」～産業経済の活性化、文化・芸術・観光の充実～
基本施策6	雇用が安定したまちにします。

大項目	G 基盤の充実			中項目	1人材の確保と育成			
小項目	(1)人材の確保			事業名	情報発信による人材の誘致			
連携施策	大項目		中項目		小項目		事業	細事業
細事業名	<b>①佐倉市への定住を喚起する情報発信事業</b>							
事業主体	市(産業振興課)							
現状と課題 (従来の取組)	<p>首都圏40キロ圏のベッドタウンである本市には、大学進学をきっかけに都内や地方に進出し、そのまま彼地で就職する若者が多くいます。これにより市内の若年層の生産年齢人口は減少に拍車がかかっており、深刻な問題となっています。</p> <p>そのため、雇用の場の創出や、住宅の供給、安心して子どもを産み育てていくことのできる環境の整備などの定住施策を推進するとともに、こうした市の情報を積極的に発信し、若者を市内に留め、また市外に出ても再び帰ってくる「Uターン」を推進し、さらに他市の若者も市に移住してくるようなPRを行う必要があります。</p>							
事業の概要	市出身で、都内で働く若い世代を対象とした面接会やインターネットを活用した市政情報の提供・相談を推進します。							

指 標	現状値(21年度)	目標値(27年度までに)
40歳以下の人口構成比率	(確認中)	維持

指標については、各事業の実施段階で、関係団体との協議を経て、より具体的なものを設定します。

年 度	H23	H24	H25	H26	H27
事業実施予定	総合計画が決定された後、確定します。				

【第4次佐倉市総合計画における位置づけ】

施策No.	施策の方向
第4章	「明日へつながるまちづくり」～産業経済の活性化、文化・芸術・観光の充実～
基本施策6	雇用が安定したまちにします。

大項目	G 基盤の充実			中項目	1人材の確保と育成			
小項目	(1)人材の確保			事業名	企業OB人材バンク事業			
連携施策	大項目		中項目		小項目		事業	細事業
細事業名	<b>①企業OB人材バンク事業</b>							
事業主体	市(産業振興課)、佐倉商工会議所							
現状と課題 (従来の取組)	<p>豊富な経験や知識を有する企業OBなどのビジネスキャリアの方々にとって、退職後その経験・能力を発揮する機会は非常に少なくなっていますが、退職後も仕事を続ける意向の高い市民は多くいます。(市民意識調査結果より)</p> <p>一方、企業において、経営革新や新事業展開などに対応していくための”優秀な人材の確保”は、中小企業にとって経営上の大きな課題となっています。</p>							
事業の概要	<p>企業OB人材バンクの設立について検討します。</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内の有能な人材を中小企業に紹介し、保有する知識・技能等を活用することで、企業の経営改善に寄与します。</li> <li>高齢化社会への対応として、能力を発揮する場の提供と生きがいのある社会を創出します。</li> </ul> <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業を退職した市民を市等が設立する人材バンクに登録します。</li> <li>市内中小企業の希望に応じて、バンクから人材を紹介します。</li> <li>市内外の企業に退職者等の推薦を依頼するとともに、中小企業者にバンクの情報提供を行います。</li> </ul>							

指標	現状値(21年度)	目標値(27年度までに)
バンク登録者数	0人	100人
バンク利用企業数	0社	5社

指標については、各事業の実施段階で、関係団体との協議を経て、より具体的なものを設定します。

年度	H23	H24	H25	H26	H27
事業実施予定	総合計画が決定された後、確定します。				

## 【第4次佐倉市総合計画における位置づけ】

施策No.	施策の方向
第4章	「明日へつながるまちづくり」～産業経済の活性化、文化・芸術・観光の充実～
基本施策4	さまざまな企業の活動が盛んなまちにします。

大項目	G 基盤の充実			中項目	1. 人材の確保と育成					
小項目	(2) 人材育成			事業名	さくら企業塾(仮称)開設の検討					
連携施策	大項目	B	中項目	2	小項目	(1)	事業	②	細事業	①
		C		3		(2)		①		①
細事業名	<b>①さくら企業塾(仮称)開設の検討【重点事業】 ※P.57再掲</b>									
事業主体	市(産業振興課)、商工会議所									
現状と課題 (従来の取組)	<p>本市の産業振興のためには、地域の人材の育成が不可欠ですが、長引く不況の影響により、中小企業は経営体力が低下し、人材育成、後継者育成に注力する余裕がなくなっています。</p> <p>地域のキーパーソンの発掘・教育、異業種交流による新規事業への取り組み、中小企業の人材育成などを支援するための組織づくりが必要です。</p>									
事業の概要	<p>人材育成のための各種研修会・講座の実施、産業振興の中心となるリーダーの育成、中小企業の若手経営者や後継者の育成、異業種交流による新規事業への取組や技術者の育成など、幅広い、やる気のある人材の育成を支援する拠点組織として、“さくら企業塾(仮称)”の開設を検討します。</p> <p>これは、工業(製造業・建設業)に限らず、商業、サービス業、NPO等、市内の産業を活性化したいと願う人たちなら誰でも参加できる組織とし、名称も参加者が決めることとします。研修会や講座、異業種交流による新事業の創出、まちづくりワークショップ、シンポジウムの開催等、企画・運営も塾生自らが自主的に行う組織とします。</p>									

指 標	現状値(21年度)	目標値(27年度までに)
塾生数		
企業塾による事業開催件数		

指標については、各事業の実施段階で、関係団体との協議を経て、より具体的なものを設定します。

年 度	H23	H24	H25	H26	H27
事業実施予定	総合計画が決定された後、確定します。				

【第4次佐倉市総合計画における位置づけ】

施策No.	施策の方向
第4章	「明日へつながるまちづくり」～産業経済の活性化、文化・芸術・観光の充実～
基本施策4	さまざまな企業の活動が盛んなまちにします

産業振興ビジョン 事業シート

大項目	G 基盤の充実			中項目	1人材の確保と育成					
小項目	(2)人材育成			事業名	研修会、講演会の実施					
連携施策	大項目	F	中項目	2	小項目	(1)	事業	②	細事業	①
細事業名	<b>①産業人材育成研修事業</b>									
事業主体	市(産業振興課)、佐倉商工会議所									
現状と課題 (従来の取組)	<p>少子高齢化が進み、生産年齢人口が減少する一方で、不況が長期化している現在の社会情勢にあっては、企業からは優秀で即戦力となり、また入社後もさらに総合的にスキルアップできる人材が望まれています。</p>									
事業の概要	<p>事業主・従業員向け研修                  経営に必要なノウハウ(地域ニーズの把握、再生・活性化計画策定、テナント・マネジメント、イベント企画、空き店舗対策等)や、事業活性化に必要なノウハウ(経営効率改善、仕入れ・在庫管理等)を取得させるため、企業にコンサルタント、大手流通業OB等の専門家人材を一定期間派遣し、実践的な研修を実施します。</p>									

指 標	現状値(21年度)	目標値(27年度までに)			
研修・講演受講者数	-	人			
指標については、各事業の実施段階で、関係団体との協議を経て、より具体的なものを設定します。					
年 度	H23	H24	H25	H26	H27
事業実施予定	総合計画が決定された後、確定します。				

【第4次佐倉市総合計画における位置づけ】

施策No.	施策の方向
第4章	「明日へつながるまちづくり」～産業経済の活性化、文化・芸術・観光の充実～
基本施策4	さまざまな企業の活動が盛んなまちにします。

大項目	G 基盤の充実			中項目	1人材の確保と育成					
小項目	(2)人材育成			事業名	リーダーの育成、若手経営者、後継者育成					
連携施策	大項目	G	中項目	1	小項目	(2)	事業	①	細事業	
細事業名	<b>①リーダーの育成、後継者育成事業</b>									
事業主体	市(産業振興課)、佐倉商工会議所									
現状と課題 (従来の取組)	<p>・中小企業では、従業員を総合的にスキルアップする人材を育成することが求められていますが、そのための研修等を個別で実施することは負担が大きく、連携組織等によって効率的に実施することが求められます。</p> <p>・市内企業の大半を占める中小企業ですが、後継者難を理由に廃業や事業規模縮小を余儀なくされるケースが多くなっています。</p>									
事業の概要	<p>中小企業における人材育成に係る負担を軽減し、基盤技術や経営等に携わる中堅リーダー(係長～課長級)育成の取組を支援するため、従業員が新商品開発、販路開拓等の専門的な研修に参加する経費の補助を検討します。</p> <p>対象:受講料、教材費(テキスト代等)、出張旅費(外部講師を招いて社内で実施する研修の場合は、講師謝金、旅費等)のうち企業が負担する経費。</p> <p>中小企業の人材・後継者育成を目的として、インターンシップ(学生の企業の現場における就業体験)を実施した協力事業所に対して支援します。</p>									

指 標	現状値(21年度)	目標値(27年度までに)
当該講座受講者数	-	50人

指標については、各事業の実施段階で、関係団体との協議を経て、より具体的なものを設定します。

年 度	H23	H24	H25	H26	H27
事業実施予定	総合計画が決定された後、確定します。				

【第4次佐倉市総合計画における位置づけ】

施策No.	施策の方向
第4章	「明日へつながるまちづくり」～産業経済の活性化、文化・芸術・観光の充実～
基本施策4	さまざまな企業の活動が盛んなまちにします。



産業振興ビジョン 事業シート

大項目	G 基盤の充実				中項目	2 連携の強化				
小項目	(1)産学官連携				事業名	産学連携の活性化支援				
連携施策	大項目	A	中項目	2	小項目	(2)	事業	①	細事業	①
	大項目	B	中項目	1	小項目	(1)	事業	⑤	細事業	①
	大項目	G	中項目	1	小項目	(1)	事業	①	細事業	①
細事業名	<b>①産学連携の活性化支援事業</b>									
事業主体	市(産業振興課)、佐倉商工会議所									
現状と課題 (従来の取組)	<p>産業の高度化や新産業の創出のために、「産(産業界)」と「学(地域の大学や高校等)」が連携して新たな分野に挑戦し、開拓・実用化していく「産学連携」が注目されています。特に本市企業の多くを占める中小企業においては、自前で研究開発機能を蓄積することは困難も多いので、中小企業が取り組む技術開発や製品開発に「学」や「官」が連携して小さくとも成功事例を積み重ねていくことが、本市中小企業の体質を研究開発型に転換していくうえで有効です。</p> <p>しかし、企業と学校との交流があまり盛んでないこと、また、地域に産業分野専門の教育・研究機関が少ないことから、連携実績は伸び悩んでいる状況です。</p> <p>そこで、こうした企業や地域の動きが活発化するよう、市が積極的に支援していく必要があります。</p>									
事業の概要	<p>企業と大学の研究開発交流会など産学交流の場の設定 産学官連携フォーラムサイトの運営 企業のニーズや技術開発テーマ、大学等の人材・研究シーズのマッチング より高度な人材養成のために産業界や教育機関の人材・機能を活用した職業能力開発の充実</p>									

指標	現状値(21年度)	目標値(27年度までに)			
産学連携事業数	-	事業			
指標については、各事業の実施段階で、関係団体との協議を経て、より具体的なものを設定します。					
年度	H23	H24	H25	H26	H27
事業実施予定	総合計画が決定された後、確定します。				

【第4次佐倉市総合計画における位置づけ】

施策No.	施策の方向
第4章	「明日へつながるまちづくり」～産業経済の活性化、文化・芸術・観光の充実～
基本施策4	さまざまな企業の活動が盛んなまちにします。

大項目	G 基盤の充実	中項目	2 連携の強化
小項目	(2)業種間連携の推進	事業名	生産者と販売者等との連携事業検討
連携施策	「事業の概要」のとおり		
細事業名	<b>①農商工等連携による活動の支援</b>		
事業主体	市(産業振興課、農政課)		
現状と課題 (従来の取組)	<p>「農商工連携」とは農、商、工、観光等、分野の異なる産業間において、通常の商取引関係の枠を超えて協力し、それぞれの技術や知識、経営資源を活用して地元農産物などを活用した新商品、新サービスの創出や、流通経路の拡大等を行うことで、それぞれの産業の活性化や雇用の創出、地域の活性化を図るものです。</p> <p>近年は農商工等連携促進法が制定される(平成20年度)など、今後ますます連携が活発になることが期待されていることから、市が中心となってこうした活動を支援する必要があります。</p>		
事業の概要	<p>農産加工品、佐倉ブランドの共同開発、加工、販売等(P.11～14、45 参照)</p> <p>佐倉の逸品や土産物の開発、販売促進(P.41、42、62、77、79 参照)</p> <p>「食」の観光資源化(ご当地グルメ等)(P.76、80 参照)</p> <p>産業交流イベントの実施(産業まつり等)(P.33、62 参照)</p> <p>農業体験型観光施設と産業の振興(草ぶえの丘等)(P.19 参照)</p>		

指標	現状値(21年度)	目標値(27年度までに)			
新規連携事業数	-				
指標については、各事業の実施段階で、関係団体との協議を経て、より具体的なものを設定します。					
年度	H23	H24	H25	H26	H27
事業実施予定	総合計画が決定された後、確定します。				

## 【第4次佐倉市総合計画における位置づけ】

施策No.	施策の方向
第4章	「明日へつながるまちづくり」～産業経済の活性化、文化・芸術・観光の充実～
基本施策4	さまざまな企業の活動が盛んなまちにします。